

1. 評価結果概要表

作成日

平成 21 年 6 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071200549		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホーム ほんわかハウス		
所在地	福岡市西区千里字中原 4 9 - 1 〒 819-0374 (電話) 092-805-5658		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年6月8日	評定確定日	平成21年7月6日

【情報提供票より】(平成 21 年 5 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 7 月 1 日						
ユニット数	3 ユニット		利用定員数計		27 人		
職員数	24 人	常勤	20 人	非常勤	4 人	常勤換算	22.9 人

(2) 建物概要

建物構造	本館：木造 別館：鉄骨 造り 2 階建ての～ 1～2 階部分
------	-----------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000～41,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	○ 有 (家賃3ヶ月 円)	無	
保証金の有無 (一時金を含む)	有 (円) ○ 無	有の場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝 食 円 夕 食 円 または1日あたり 1,270 円程度	昼 食 円 おやつ 円	

(4) 利用者の概要 (5 月 20 日現在)

登録人数	25 名		男性	3 名	女性	22 名
要介護 1	2 名		要介護 2	9 名		
要介護 3	7 名		要介護 4	4 名		
要介護 5	3 名					
要支援 1	名		要支援 2	名		
年齢	平均	80.9 歳	最低	57 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あおいクリニック 別府歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成12年の介護保険の施行とほぼ同時に開設され、今年の7月で丸10年目を迎える。31ユニットと全体の規模は大きいですが、ユニット毎にそれぞれ違う顔を持つ家族のような特徴ある取組みが行われている。玄関前には朝顔や植物が植えられ、縁台で外気浴をする利用者の穏やかな姿から、居心地の良い場所であることが十分に伝わってくる。郊外にあるグループホームで、母体法人の老人保健施設が併設されており、ホーム協力病院との連携のもと、医療に関する報告書により今までのかかりつけ医や専門医との連携を図るなど、医療面での充実度も高く、適切な医療受診への支援が行われている。10年の歳月の積み重ねの中、地域との地道な交流・連携に努め、今では何気ないお付き合いが繰り返されるまでになっており、今後も地域とともに穏やかな暮らしの継続が期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目：外部4) 前回の評価結果について、運営推進会議や家族会にて報告を行い、ミーティング時に職員と協議するなど、質の向上への取組みがある。この過程において、記録内容の再チェックを行ったり、言葉使いに気をつけるなど質の向上への取組みがある。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目：外部4) 今回の外部評価実施にあたり、自己評価内容を職員に回覧し、職員の意見を各ユニットリーダーが集約するなど、職員がかかわっての自己評価への取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目：外部4,5,6) 運営推進会議では、ホーム状況の説明、外部評価結果の報告、認知症高齢者への対応についての勉強会の開催等が行われている。また、町内会や老人会への参加について話し合ったり、地域情報を得るなど、さまざまな意見交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目：外部8,9) 家族会及び家族の面会時、その都度の電話連絡などでの報告がある。また、利用者毎に、毎月、担当職員からの手紙を添えた写真の送付や2ヵ月おきの“ホームだより”の送付などを通じて家族に報告を行い、家族の思いや要望等の表出に努めている。出された意見等については、ミーティングで話し合うなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目：外部3) 町内にある花壇の手入れや散歩時の挨拶、高等学校文化祭の見学、町内の行事への参加、ホームで実ったスモモの近隣宅へのおすそわけなど、何気ないお付き合いが繰り返されている。

2. 調 査 報 告 (詳 細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域との連携を盛り込んだ理 念を作成している。日々のかかわりを通じて、 地域との連携に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を念頭において、「利用者主体」 をこころがけ、その人らしく利用者が地域で過 ごせるように、介護計画作成や日々のケアへ取 り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	町内にある花壇の手入れや散歩時の挨拶、高 等学校文化祭の見学、町内の行事への参加、 ホームで実ったスモモの近隣宅へのおすそわけ など、何気ないお付き合いが繰り返し広がられてい る。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議や家 族会にて報告を行い、ミーティング時に職員と 協議するなど、質の向上への取り組みがある。こ の過程において、記録内容の再チェックを行っ たり、言葉使いに気をつけるなど質の向上への 取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意 見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホーム状況の説明、外部 評価結果の報告、認知症高齢者への対応につ いての勉強会の開催等が行われている。また、町 内会や老人会への参加について話し合ったり、 地域情報を得るなど、さまざまな意見交換の場 となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員 の参加、集団研修やグループホーム協議会での 全体研修等での行政担当者とかかわりがある。 特定の会議等以外での、行政担当者との具体 的な連携に関しては、課題である。	○	運営推進会議時を利用して、成年後見制度 等についての講師依頼を行ったり、行事案内 を送付して行事への見学を促すなど、更に一 歩踏み込んだ具体的な連携への取組みを期待 します。
7 追加	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	職員に対しては、研修会への参加を通じて制 度の理解と普及に努めている。家族に対 しては、必要と思われる利用者の家族へ説明 を行い、制度利用の支援を行っている。家族 会時に制度についての話題が上るなど、少 しずつではあるが理解が得られてきている。	○	運営推進会議や家族会時等を利用して、行 政担当職員や専門家による制度利用にあ たった具体的な事例などを通じて、制度に 関する更なる理解と普及への取組みを期待 します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあ わせた報告をしている	家族会及び家族の面会時、その都度の電話連 絡などでの報告がある。また、利用者毎に、毎 月、担当職員からの手紙を添えた写真の送付や 2ヵ月おきの“ホームだより”の送付にて、利 用者の様子や生活状況などを知らせている。		
9 (8)	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	家族会や家族面会時、その都度の電話連絡、 利用者毎の手紙や“たより”の送付などを通 じて家族に報告を行い、家族の思いや要望等 の表出に努めている。出された意見等につ いては、ミーティングで話し合うなどの取 組みがある。		
10 (9)	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	新しく職員が入職した際は、昼間の勤務か ら入り、勤務をダブルさせて対応を行い、先 輩職員が指導を行うなど、馴染みの関係 づくりへの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用等に関してヘルパー2級の条件を付けているが、その他の制限は行われていない。その時々々のホーム状況に応じての採用である。各種研修等への参加は勤務扱いである。外部研修の参加により、他事業所職員との交流を通じて仕事へのモチベーションを高めてもらう取り組みがある。		
12	20 追加	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政主催の講話会や研修に職員が参加し、ミーティング時に報告会を実施するなど、人権教育や啓発への取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティング時に計画立てた勉強会への取り組みがある。また、グループホーム協議会主催の新人研修や各種研修案内を提示して希望者を募ったり、内容に応じて職員を振り分けるなどの取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロックによる独自の活動を通じて、他の事業所との職員間での情報交換や訪問などの交流が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の本人・家族との面談やホーム見学等を通じて、本人の様子を見ながらの馴染みの関係作りへの取組みがある。入居直後は、予め把握しておいた入居前の一日の生活状況に合わせながら支援を行うなど、不安を少なくするような支援が行われている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のかかわりを通じて、精神的な部分で感じ、学ぼうとする姿勢が伺える。新しく入った職員や夜勤帯の職員に対する利用者の激励やねぎらいの言葉かけが行われるなど、支えあう関係が構築されている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりや家族の面会時、その都度の電話連絡、手紙を添えた写真の送付などを通じて、利用者・家族の思い等を把握している。把握した思い等は、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、利用者・家族の思いや希望等を基に、ミーティングで他の職員の意見を聞いて介護計画書を作成し、計画作成担当者による内容の確認が行われている。介護計画書の内容は、本人の希望や趣味、出来る事を取り入れた内容である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のミーティング時に、利用者一人ひと りの状況や対応の仕方について、情報交換と確認 が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	地域住民への認知症高齢者への対応の仕方の レクチャー、併設施設のデイケアの利用支援、 専門科医院への受診対応及び協力病院との連携 による適切な医療受診の支援など、柔軟な対応 が行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医はあるも、利用者の今までのか かりつけ医への受診も可能である。医療連携日 報を用いて、今までのかかりつけ医や専門科医 院との連携を図るなどの支援が行われている。		
22 (19)	49 (47)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合の対応指針と意向 確認書にて家族の意向を確認し、日々のかかわ りを通じて利用者の意向を把握している。利用 者の状況に応じて、家族・専門医等によるその 都度の話し合いを行い、関係者で共有するなど の支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	言葉かけやプライバシーへの配慮について は、職員一人ひとりが自覚を持って、丁寧に対 応している姿が見受けられた。各種記録類は、 決められた場所で適切に保管されていた。		
24 (21)	54 (52)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事を取る場所や始めるタイミング、食後の 過ごし方など、利用者一人ひとりが持っている 時間の流れを尊重しての支援が行われている。 ホーム周囲の散歩やホーム玄関前で日光浴をす る方、居室で過ごす方など、その時々 の希望に沿った支援が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	○食事を楽しむことができる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	昼食は法人本部からの提供であるが、朝と夕 食はホームで調理している。テーブル拭きや配 膳、汁物のつぎわけなど、利用者の出来る事を 把握して介護計画書に位置付けての支援が行わ れている。職員は利用者と一緒に食事を取って おり、和やかな雰囲気であった。		
26 (23)	59 (57)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午後から夕方までの時間帯で、毎日の入浴が 可能であり、利用者の状況や希望に応じて対 応している。夕方近くからゆっくりと時間をかけ ての入浴や利用者の気に入ったシャンプー等 を使用するなどの支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	広告や折り紙おり、週刊誌を読む、野菜き り、掃除、写経、歌など、利用者一人ひとりの 趣味や出来る事を把握し、介護計画書に取り入 れて支援している。		
28 (25)	63 (61)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	初詣、月に1度の外食、その時々希望によ るドライブ、散歩、買物の支援など、柔軟に対 応している。訪問当日も、ホーム周囲の散歩に 出かける方、ホーム玄関前で日光浴をして寛ぐ 方などの姿が見受けられた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	各ユニットの出入り口は開錠されている。利 用者の状態のきめ細かな把握により外出傾向を 把握し、職員間の見守りと一緒に外出するなど の対応がある。		
30 (27)	73 (71)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、消防署の立会いによる避難訓練が 行われている。防災処理が施されたカーテンの 使用、燃えやすいものを置かない、勉強会で災 害について取り上げるなど、日常的に防災に対 する意識付けへの取り組みがある。今後、地域で の災害訓練に参加予定である。	○	母体法人との協力体制のもと、様々な状況 を想定して、具体的な連絡方法や応援体制な どを再度見直し・検討され、何かあった時に 慌てずに対応できるような連携への取組みを 期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	昼食は法人本部からの提供であるが、朝と夕 食はホームで調理している。併設施設の栄養士 に協力を得て、栄養バランスを考慮した食事内 容である。食事摂取量は毎回記録し、必要な利 用者に対しては水分摂取量を記録するなどの支 援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット出入り口には和服が下げられ、利用者の記憶に働きかけるような工夫がされている。ホーム内を通る風が心地よく、玄関前に置かれた縁台で寛ぐ利用者の様子から、ホームが居心地良い場所となっているのが伺えた。		
33 (30)	85 (83)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥や飾り棚、テレビ、本、写真など、馴染みの物や趣味の物が居室に持ち込まれている。居室は、利用者と家族が相談して、利用者の落ち着く家具類の配置がなされており、利用者がゆったりと過ごせるような工夫が見受けられた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号